

保健体育科学習指導案

日 時 平成28年11月17日(木) 公開授業1
会 場 柔剣道場
学 級 1年A・B組(男子38名)
授業者 菊池 聡

1 単元名 F 武道「柔道」

2 単元について

(1) 教材観

武道は、武技・武術などから発生した我が国固有の文化である。武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する運動である。

武道は中学校で初めて学習する内容であるため、基本動作と基本となる技を確実に身につけるようにするものである。

柔道も伝統的な武術の一つであり多様な流派の柔術を、教育的で体育的な原理を生かしながら集大成されたものである。身体や精神を鍛錬修養し、自己を完成させ、社会に役立つ人間形成に大いに役立つものである。

柔道は、柔道着を身につけた2人が直接組み合せて投げたり抑えたりする中で、崩しや体さばき、相手の動きに対応した自己の技を習得していけるスポーツである。また、タイミングを計りながら多様な技を試みたり、連絡技として試行錯誤したりして運動の取り組み方を工夫することができる。

(2) 生徒観

体育の学習には意欲的で、コツコツと取り組む姿勢が見られる。学習の形態や自分が学ぶべき点に関して課題意識をしっかりと持てる。陸上競技や水泳など個人的スポーツでは自分の課題を把握し、同じ課題を持った生徒同士で話し合いながら学習を進めることができる。また、球技などの集団的スポーツでは、役割分担に従い相互に学習を進めることができるなど、運動に対して前向きに取り組むことができる。

(3) 研究とのかかわり

研究主題「一人ひとりが成長を実感できる指導のあり方～学びの自覚を促す振り返りを通して～」にせまるため、具体的にその姿をイメージして指導構想を考えていきたい。

そのポイントとして①本時の「ねらい」に即した課題を設定すること。②相互に学習を進めることができるように、教え合うポイントを明確にして場を設定すること。③終末の振り返りで学習した内容のポイントが整理することができること。この3点を大切に、指導したい。

3 単元の目標

- (1) 相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開することができるようにする。
- (2) 武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。
- (3) 武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができるようにする。

4 単元の指導計画

(1) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
①基本的な技を習得し，攻防や勝敗など柔道の楽しさを味わおうとしている。 ②礼儀作法に心がけ相手を尊重する態度を取ろうとしている。 ③攻防の形を理解し，勝敗の結果を受け入れようとしている。 ④安全を確かめ，禁じ技を用いないなど，練習や試合で安全に留意しようとしている。	①自分の能力に適した効果的な練習方法などを考えることができる。 ②くずし・体さばきを利用して技を基本動作として考えることができる。 ③連絡技や試合における技の選択や判定基準などを考えることができる。	①基本運動を重視し，対人的技能を練習することができる。 ②基本的な技を身につけ，対人的技能を高めることができる。 ③身につけた技を用いて，相手の動きに対応した練習や試合をすることができる。	①柔道の歴史や特性などを知ることができる。 ②技を完成させるために必要な構造を知ることができる。 ③練習の仕方や試合の仕方など，自分や相手にあった方法を知ることができる。 ④柔道の礼儀作法や審判方法などを知ることができる。

(2) 単元の指導計画

時間	学習項目	学習活動	関心	思考	技能	知識
1	柔道の歴史を知り 礼法について身につけよう	・柔道の歴史を知る ・柔道着の脱着 ・礼法（礼・座り方）	①			①
2	基本技能を身につけよう (本時)	・姿勢・八方くずし・受け身・体さばき ・固め技 (袈裟固め，横四方固め，上四方固め) ・投げ技 (膝車，支え釣り込み足，体落とし，大腰)	①	①		
3				①	①	
4				②		
5						①
6			②		②	
7	連絡技に挑戦しよう	・投げ技から固め技の練習をする	②	③		
8					③	③
9	試合をしよう	・試合の礼法や運営方法を理解する ・固め技での勝敗を決定する	④			④
10			③		③	

5 本時の指導

(1) 目標

基本運動を重視し、対人的技能の練習することができる。(技能)
 技を完成させるために必要な構造を知る。(知識・理解)

(2) 展開案

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 10分	1 整列・挨拶 2 ウォーミングアップ 3 学習課題の提示	・礼節を守りながらも元気に挨拶を交わす ・筋力トレーニングをしっかり行う ・基本的な動きの確認をする	・場の雰囲気大切にように心がける。 ・持ち物や服装などの安全への確認を行う。 ・内容を意識しているか心がける。
大腰からの受け身を安全に美しくしよう。			
展開 30分	4 大腰の技の構造を理解する。 5 課題解決で相互に教え合う 6 演武発表	・くずしの方向を確認する ・足さばきの確認をする ・技のかかりを確認する ・受け身の確認をする ・取りの確認をする ・受けの見栄えを美しいものにする ・技全体のかかりを判定する ・数グループで発表会を行う	・力づくでなく部分的に分解して理解を深める。 【知識・理解】 技の完成のため、必要な構造が理解されているか。 — 支援を必要とする生徒への手立て — 部分的に理解不足な点をモデルを利用しながらゆっくり確実にできるように配慮する。 ・しっかり腰に乗せ、安定した投げ方を心がける。 ・受け身を自分から行えるように心がける ・全体を見て取り受けにアドバイスできるように心がける。 【技能】 各自の基本運動や対人練習が円滑に進んでいるか。 (巡視により把握する) — 支援を必要とする生徒への手立て — 全体的な動きができない者に、グループ内でアドバイスできるような雰囲気を作る。 ・タイミングの良さなどの共有を図る。
終末 10分	7 本時の振り返り	・学習カードに記入 ・発表	◎体得だけでなく、学習理解が深まっているか。 (記入から把握) ・気づきの共有を図る

(3) まとめ

基本運動を重視し、対人的技能の練習することができたか。(活動5の場面で確認する。)
 技を完成させるために必要な構造を理解できたか。(活動4の場面で確認する。)
 発表などの振り返りで自分の気づいていなかったことを深めることができたか。
 (活動6や活動7の場面において確認する。)

(4) 板書計画

・壁を利用

・ホワイトボードを利用して

前時までの 学習内容の 掲示	学習課題 大腰からの受け身を 安全にきれいに取る ことができる。	技の図	学習の振り返りで 学んだこと
	くずしの 方向の図	体さばき の図	